

国際医療福祉大学大学院

保健・医療・福祉専門職のキャリアアップを支援

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい本学大学院の特長

全国7都市（栃木県大田原市・千葉県成田市・東京都港区・神奈川県小田原市・静岡県熱海市・福岡県福岡市・福岡県大川市）にキャンパスを展開する国際医療福祉大学大学院は、平日の夕方以降や土日祝日に授業を集約したカリキュラムとさまざまなICT教育ツールにより、全国の社会人の学びを支援しています。



ICT教育ツール

- 1 居住地に近いどのキャンパスでも臨場感あふれる映像・音声で受講できる、同時双方向遠隔授業システム
- 2 自宅など、どこからでも手軽に授業や研究指導を受けられる、Webコミュニケーションツール
- 3 通勤・休憩時間など、いつでもどこでも自分の都合に合わせて学修できる、eラーニングシステム
- 4 多数のコンテンツで保健・医療・福祉を幅広く学べる、VODライブラリー

医療福祉学研究科

修士課程

- 保健医療学専攻**
- 看護学分野
 - 特定行為看護師養成分野 (旧: ナースプラクティショナー養成分野)
 - 助産学分野
 - 理学療法学分野
 - 作業療法学分野
 - 言語聴覚分野
 - 視機能療法学分野
 - 福祉支援工学分野
 - リハビリテーション学分野
 - 放射線・情報科学分野
 - 生殖補助医療胚培養分野
 - 医療福祉教育・管理分野
- 臨床検査学分野
 - 災害医療分野
 - 遺伝カウンセリング分野
 - 医療機器イノベーション分野
- 医療福祉経営専攻**
- 医療経営管理分野
 - 診療情報アナリスト養成分野
 - 医療福祉国際協力学分野
 - 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
 - 医療福祉学分野
 - 医療福祉ジャーナリズム分野
 - 医療通訳・国際医療マネジメント分野
- 臨床心理学専攻**

博士課程

- 保健医療学専攻**
- 看護学分野
 - 助産学分野
 - 理学療法学分野
 - 作業療法学分野
 - 言語聴覚分野
 - 視機能療法学分野
 - 福祉支援工学分野
 - リハビリテーション学分野
 - 放射線・情報科学分野
 - 生殖補助医療胚培養分野
 - 医療福祉教育・管理分野
 - 臨床検査学分野
 - 災害医療分野
- 医療遺伝学分野
 - 医療福祉経営学分野
 - 診療情報管理・分析学分野
 - 医療福祉国際協力学分野
 - 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
 - 医療福祉学分野
 - 医療福祉ジャーナリズム分野
 - 臨床心理学分野

薬学研究科

博士課程 (4年制)

医療・生命薬学専攻

薬科学研究科

修士課程 (2年制)

生命薬科学専攻
● 生命薬学分野 ● 医療薬学分野

医学研究科

博士課程

医学専攻
● 基礎医学研究分野 ● 社会医学研究分野
● 臨床医学研究分野

修士課程

公衆衛生学専攻
● 国際医学分野 ● 医療福祉管理学分野
● 疫学・社会医学分野 ● 予防医学分野

大学院に関するお問い合わせ

東京赤坂キャンパス事務部

Tel : 03-5574-3900 〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26

学生募集要項は次のいずれかの方法でご請求ください

Tel 03-5574-3903

E-mail daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp

HP



国際医療福祉大学

- 大田原キャンパス
 - 保健医療学部：看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視機能療法学科、放射線・情報科学科
 - 医療福祉学部：医療福祉・マネジメント学科
 - 薬学部：薬学科 (6年制)
- 成田キャンパス
 - 医学部：医学科
 - 成田看護学部：看護学科
 - 成田保健医療学部：理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科、放射線・情報科学科
 - 臨床工学特別専攻科 (1年制)
 - 介護福祉特別専攻科 (2年制) ※2023年4月開設予定

- 東京赤坂キャンパス
 - 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部：心理学科、医療マネジメント学科
- 小田原キャンパス
 - 小田原保健医療学部：看護学科、理学療法学科、作業療法学科
- 大川キャンパス
 - 福岡保健医療学部：理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科
 - 福岡薬学部：薬学科 (6年制)

国際医療福祉大学 附属病院

- 国際医療福祉大学病院 (栃木県)
- 国際医療福祉大学塩谷病院 (栃木県)
- 国際医療福祉大学成田病院 (千葉県)
- 国際医療福祉大学市川病院 (千葉県)
- 国際医療福祉大学三田病院 (東京都)
- 国際医療福祉大学熱海病院 (静岡県)

国際医療福祉大学大学院

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

GUIDEBOOK

視機能療法学分野

医療福祉学研究科

■ 修士課程 保健医療学専攻

■ 博士課程 保健医療学専攻



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学



新井田 孝裕

視機能療法学分野責任者

北里大学大学院にて神経眼科を専攻。医学博士。眼科専門医。東京都神経科学総合研究所で神経解剖学を、バージニア州立医科大学に留学し視覚生理学を学ぶ。その後、東芝林間病院眼科医長等を経て、前北里大学医療衛生学部（視機能療法学専攻）助教授。2002年、本学視機能療法学科開設時より学科長を務め、NHK放送技術研究所客員研究員（立体映像部門）、厚生労働省班会議：IT眼症と環境因子研究班等を歴任。現在は全国視能訓練士学校協会会長を務め、日本弱視斜視学会理事、日本神経眼科学会評議員としても活躍している。

視機能療法学分野の受験を検討されている方へ

研究と聞くだけで難解で、自分には到底できないと身構える方々も多いと思いますが、大学院は単に研究手法を学び、論文を書くためのテクニックを習得するだけの場ではありません。さまざまな人との出会いや交流を通じて見聞を広めると同時に、これまでの臨床や実務経験の中で積み重ねてきた知識や考え方が本当に正しいのか、見直し、整理し、検証する良い機会になります。

大学院で科学的根拠や客観的根拠に基づいた分析能力を培うことで、論理的な思考力や洞察力が身につく、現場での実務に還元することができます。大学院を修了すると、一回り大きくなった自分自身に気づくはず。もちろん、社会人として働きながら大学院で学び、学位を取得することは容易なことではありません。

研究テーマは基本的に院生自身の職場でデータ収集可能な事例を中心に無理のない範囲で決定しますが、テーマを決定するためには関連する先行研究の論文に目を通し、論点を整理しておく必要があります。そのほかにも、研究計画を立案し、倫理審査を申請し、データの収集と整理、統計処理、論文作成、報告会の準備と2年間（または3年間）は非常に短く感じるはず。

視機能療法学分野の研究指導は神経眼科学、視能矯正学、視能検査学、ロービジョンなどの眼科領域に加え、視覚障害を有する児童の特別支援教育に関連した視機能評価や視覚認知研究など幅広い領域に及びます。視能訓練士のみならず保健医療に携わるリハビリ専門職の方も大歓迎です。まずこんなことをテーマに大学院で研究してみたいとお考えの方は、ぜひ躊躇せずに事前相談されることをお勧めいたします。

視機能療法学分野での学び

- 学際的教育・研究環境
- 社会人も学びやすい教育環境
- 遠隔授業システムの活用

- リサーチマインドの育成
- 英語論文読解力の錬成
- 連携に必要な専門知識の習得
- 検査・研究技術のスキルアップ

修士課程

キャリアアップ

博士課程

- 連携研究の実践
- 英文記述力の錬成
- 高度なデータ処理・解析法の習得

育成する人材

- 視覚科学の臨床研究に従事できる研究者・他分野と連携のできる視能訓練士
- 研究的視点を持った教育力のある養成校教員
- 視機能評価に精通する養護教諭・保健医療専門職 など

修士課程

修業年限：2年、取得できる学位・資格：修士（保健医療学）

修士課程では視覚に関する基礎的研究や発達・加齢・疾患に伴う視覚障害の臨床研究を通じて、思考力を養いながら科学的エビデンスを探求し、実践的な研究技法の修得を目指します。

眼科医療の目覚ましい進歩と超高齢社会における視覚リハビリテーションの重要性を考慮し、眼科のみならず脳科学を含めた視覚関連領域で、将来指導者として活躍するために必要な科学的洞察力と高度な応用力を有する臨床家・教育者・研究者を養成します。

※修士課程は、専門学校等を卒業された満22歳以上の方も出願可能です。（国家資格保持等の条件を満たしている必要があります）

博士課程

修業年限：3年、取得できる学位・資格：博士（保健医療学）

博士課程では修士課程と同様に視覚に関わる様々な最新知見を実践的に学びつつ、より高度なデータ処理や解析方法を習得します。

現在取り組んでいる研究テーマの一例として、重症心身障害児・者や高次脳機能障害児・者の持つ視覚障害に関する研究がありますが、その解明と治療および療育には視機能療法学を越えた知識と多職種連携の経験が必要とします。

本分野では、特に隣接するリハビリテーションセンターと連携し、視覚科学の探求に加え、チーム医療の経験や他領域との学際研究を推進することで、新たな課題を解決できる専門家や研究者の養成をめざします。

カリキュラム一覧

修士

視機能療法学講義【修士】Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用） 視機能療法学研究指導【修士】Ⅰ（研究計画作成） 視機能療法学研究指導【修士】Ⅲ（データ分析）
視機能療法学演習【修士】Ⅰ（基礎）・Ⅱ（応用） 視機能療法学研究指導【修士】Ⅱ（データ収集） 視機能療法学研究指導【修士】Ⅳ（論文作成）

博士

視機能療法学講義【博士】 視機能療法学研究指導【博士】Ⅰ（データ収集） 視機能療法学研究指導【博士】Ⅲ（論文作成）
視機能療法学演習【博士】 視機能療法学研究指導【博士】Ⅱ（データ分析）

担当教員

氏名	職位	主な研究指導テーマ
新井田 孝裕	教授 【分野責任者】	① 眼優位性（利き目）の強さが視機能や平衡機能に及ぼす影響 ② 視機能と視覚環境が高齢者の身体制御系に及ぼす影響の評価（多職種連携研究） ③ 瞬目運動（まばたき）の生理機能と情動や視覚注意の影響
原 直人	教授	① ICT環境における近見反応の臨床応用 ② 斜視と輻湊眼球運動との関係 ③ 眼自律神経によるストレス評価 ④ スポーツと視覚との関係
内川 義和	教授	① 視覚が姿勢制御に及ぼす影響についての研究 ② 自律神経活動と姿勢制御との関連
後関 利明	准教授	① 複視の原因・治療に関する研究 ② 眼球運動と緑内障の関係 ③ MRIを用いた眼窩付属器の研究
岡野 真弓	准教授	① 読み書きと視覚機能との関連 ② 小児の視機能発達に関する研究

■ 講義等担当教員 鈴木 賢治／鎌田 泰彰／飛松 省三／神谷 和孝／早川 友恵／伊藤 美沙絵／佐伯 めぐみ

■ 視機能療法学分野の教育内容等に関するご相談 eメール: okanom@iuhw.ac.jp (担当教員: 岡野 真弓)

各教員の略歴、担当科目、研究業績、連絡先等は、大学院ホームページの視機能療法学分野ページをご参照ください。

国際医療福祉大学大学院

検索

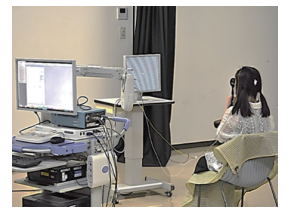
修了生のメッセージ

漆原 美希 さん

視機能療法学分野 修士課程 2021年度修了

2021年度 国際医療福祉大学大学院長賞受賞／題目：視覚誘発電位を用いたモノビジョンにおける両眼加重の評価

大学院に進学したきっかけは、卒業研究を通して研究の面白さを知り、研究に興味を持ったからです。研究については素人同然でしたが、指導教員を始め、分野の先生方が親身になって研究指導をしてくださいました。在学中は全国規模の学会で発表する機会もいただき、大変良い経験となりました。仕事と学業の両立は想像以上に多忙を極め、葛藤する場面もありましたが、大学院での学びは今の私の土台となっています。また、大学院に進学したからこそ出会えた先生方やお手本にすべき先輩もいます。この学びや人との繋がりを自分の糧とし、今後も精進したいと思います。



佐藤 司 さん

視機能療法学分野 博士課程 2019年度修了

2019年度 国際医療福祉大学大学院長賞受賞／題目：Biometry: a tool for the detection of amblyopia risk factor in children

私が研究に興味を持ったのは大学病院に就職してからであり、そこで研究の“いろは”を叩き込まれました。その後、大学院に進学し、眼球生体計測と弱視スクリーニングをテーマに研究に取り組みました。このテーマは私の中で温めてきたものであり、本大学院にはこの研究を実行できる環境が整っていました。博士論文は国際医療福祉大学大学院長賞、日本弱視斜視学会賞と名誉ある賞をいただき、研究成果が認められたことは感無量でした。「根拠に基づく医療」いわゆるEBM (Evidence-Based Medicine) の考え方は今後の視能訓練士にとって必要不可欠です。正しい学術的知識で論文を読み解く力、問題の本質を見抜く力、正しい手法でデータを解析する力、成果や考えをアウトプットする力、これらを身につけてEBMを実践することで、視能訓練士としての幅を大きく広げることが間違いないでしょう。学位取得はその一つの方法になると思います。学位を取得したら、またそこからはスタートです。かくいう私の「学び」もまだまだ続いております。

